

日中文化交流史

7

鈴木靖

倭から日本へ

「日本はいいつから日本になったのか？」

中国では、8世紀ごろまで日本を「倭」と呼び、日本も対外的には「倭」を自称していました。では、この「倭」という名はいつから来たのでしょうか。

弘仁4年(813年)に行われた『日本書紀』の講義録「弘仁私記」の序の注に、「こんな一節があります。「倭の義は未だ詳ならず。或いは曰く、我を称するの首を取りて、漢人がこれを名づくる」ところの字なり」。倭の意味は不明だが、一説には古代日本語の一人称「わに、中国人がこの字を当て、名としたという。面白い説です。

その後、倭の人ひとが漢籍に親しむようになると、この字に侮蔑的な意味があることを知ります。たとえば、当時、漢詩文の手本とされた『文選』にも、伝説上の醜女として「倭儂」の名が登場します。

そこで倭は、対外的な国号を「日本」と改めました。その時期については、『大宝律令』(701年成立)に、これを定めた条文があることから、その成立以前であることが分かっています。

一方、これが新羅や唐に伝えられた時期については、諸説がありますが、近年、吉林大学の王連龍

氏が、唐の僖鳳3年(678年)に没した禰軍という人物の墓誌に「日本の余曠(生き残り)、扶桑(日本列島)に拠りて以て誅を通る」という一節を発見し、議論を呼んでいます。

禰軍は、もと百済の高官でしたが、660年の百済滅亡の際、唐側に帰順し、665年には唐の使節として倭を訪れています。このため王連龍氏は、墓誌の「日本はまさに日本を指す」といいますが、歴史学者の東野治之氏は、これは国名ではないと反論しています。

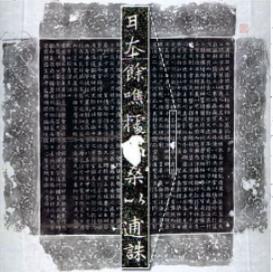
一方、朝鮮半島の古代史を記した『三国史記』を見ると、新羅の文武王10年(670年)に「倭国、号を日本に更む」という記事があります。ただ、これは中国の正史『新唐書』の記事と酷似しているため、それを読み誤って写したと考える研究者もいます。『新唐書』には、この記事の前に「後(その後)」「の」二字があるため、正確な年は不明なのです。

では、なぜ「日本」なのか。倭の使節は、唐の人ひとにこう語ったそうです。「国、日出づる処に近し、以て名と為す」。わが国は日の昇る地に近い、ゆえにこれを国号としたん。

「いつて遅くとも8世紀初め、「倭」は「日本」に生まれ変わったのです。

(法政大学 国際文化

学部教授)



『新羅書』の拓本(西安博物院蔵)